



"To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA -

c/o YMCA INTERNATIONAL PROGRAM CENTER
 Dojima Grand Bldg., 1-5-17
 Dojima Kita-ku Osaka 530 JAPAN
 PHONE (06)344-1717

CENTENNIAL

Dec. 1983

II-6

THEME (1983~'84)

- I.P. REACHING OUT
 `手を差し伸べて`
- R.D. CREATIVE POWER
 `創造への熱情`
- D.G. 兄弟の愛をもって
- P. ONWARD CENTENNIAL
 PART II

▽「身体障害者への奉仕」強調月間〈日本区〉

12月例会プログラム

〈クリスマス・ファミリー祝会〉

と き 12月17日(土) 17:00~20:15

と ころ 大阪クリスチャン・センター

- 第I部 礼 拝 司 会 中川徹太郎君
 1. 前 奏 藤井 保男君
 2. 讃 美 歌
 3. 聖 句
 4. 祈 り
 5. 讃 美 歌
 6. メッセージ 田中 穰二君
 7. 祈 り
 8. 讃 美 歌
 9. 後 奏
- 第II部 例 会 司 会 西出 宏君
 1. 開 会 山中 会長
 2. ワイズソング 一 同
 3. あいさつ 山中 会長
 4. ゲスト紹介 〃
 5. 誕生日のお祝い 〃
 6. インフォメーション・YMCAニュース
- 第III部 晩さん会 司 会 藤井 保男君
 森田 誠君
 1. 食前感謝 黒田 敏之君
 2. 家族紹介 ニコニコ 長安 敏夫君
 3. ピアノ独奏 松添 壮君
 4. 手品の競演 杉本恭之助・田中穰二・森庄司君
 5. プレゼント交換 サンタクロース
 6. ゲーム・歌
 7. メッセージ 山中 会長
 8. 閉会宣言 〃

▽会 費 メン4,000円 メネ3,000円 コメ1,000円

▽交換プレゼント(500円程度)を忘れずお持ち下さい。

The true light that gives light to every man was coming into the world. He was in the world, and though the world was made through him, the world did not recognize him. He came to that which was his own, but his own did not receive him. Yet to all who received him, to those who believed in his name, he gave the right to become children of God— children born not of natural descent, nor of human decision or a husband's will, but born of God.

この光は、この世に来て、すべての人を照らすまことの光である。(御言葉)はこの世にいた。神はこのかたによってこの世を造ったが、この世はこのかたを認めなかった。このかたは、自分の民のところへ来たが、その民はこのかたを受け入れなかった。しかし、このかたは、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。こういう人々は、血統や情欲や人の欲によってではなく、神によって生まれたのである。

(ヨハネによる福音 第1章9~13節)

11月例会 出席者(在籍会員34名)

	第1例会	第2例会	Make up	集 計
メ ン	24名	13名	3名	27名
出 席 率	70.59%			79.41%
メ ネット	8名			
コメット	1名			
ヴィジター	1名			
新 人	2名	1名		
合 計	36名	14名		

- ヴィジター 加茂栄三君(大阪クラブ)
- 新 人 阪口芳良君、照屋貞夫君(2回目)
田中成人君(桂 君)
- メ ネット 岡本、黒田、柴田、鈴木、皆本、森、山田、山中各メネット
- コメット 柴田佳苗さん
- ニコニコ 25,900円(累計86,110円)

◇退会されました 三浦 浩君

今月の聖句によせて

黒田 徹之

光とはイエス・キリストを指していることは申すまでもありません。イエス・キリストは神の子であり、また神ご自身が、自分の意志や行動を人間に示し、教えるために、人間の姿をとってこの世にその独り子を送って、その愛を示されたのです。従って私達は、神を理解し、知ろうとするならば、神の子であるイエス・キリストを見ることによってそれができるわけです。

クリスマスは、その神の子イエス・キリストが、人間の歴史の中に人の形をとって生れたことを記念して祝う行事です。従ってキリスト降誕の意義を考えずして、キャンドルサービスなどをしてお祭りさわぎをするだけでは、意味のないナンセンスな事と云わねばなりません。

▽お誕生日おめでとう

黒田 徹之 君	1922年12月 2日
堀 利満 君	1942年12月 2日
杉本 恭之助君	1925年12月 6日
上月 英子 姉	12月13日
瀬戸 慶子 メネット	12月15日
阪田 一夫 君	1916年12月20日
中村 隆幸 君	1942年12月26日

▽結婚記念日おめでとう

堀 利満・新子夫妻	12月 8日
杉本恭之助・兎子夫妻	11月 3日

(杉本ご夫妻の記念日を当月にご紹介できず、お祝いが遅れたことをお詫びします。)

▽美味噴賞の一夕 — 11月例会から —

出席率100%にチャレンジしようと意気込んだ11月の例会は、杉本EMC委員長の熱意とアイデアに導かれて、メン、メネット、コメットに新人2名も加わり36名という新年例会以来の盛会となった。

メインスピーカーの岡本君は寛正2年(1461年)創業の老舗「総本家駿河屋」の第18代目に当る。和菓子のルーツ、銘菓「落雁」の歴史、徳川11代将軍、家斉の落雁愛好にまつわる大奥秘話など興味あるお話と、同家に伝わる色あでやかな図案原画を披露された。

当夜の食事は北浜花外楼の特製弁当、デザートに駿河屋の生菓子が提供され、目・耳・口から美味噴賞の一夕であった。さらにEMCタイムでは、杉本君のライオン(株)より新製品の化粧石鹸が出席奨励賞として全員に配られ、一同満ち足りた感謝として、ニコニコ献金も25,900円と久々の好成績を記録した。

当夜の名司会松添君の提言により、病気入院中の松崎滋雄君にお見舞の寄せ書を、又IBC森委員長の企画で、ハワイヌアヌワイズへのクリスマスカードの全員署名と写真撮影をして閉会した。

なお、欠席の諸君には、各々手分けをしてメイキャップを呼びかけ、100%へ無限に近づくよう努力することを約した。

△第2例会—11月24日(木)の記録

1. 12月例会—クリスマス・ファミリー祝会—について。
 - イ. 当日出席者は、会員候補となる友人を多数誘い合わせてお越し頂くこと。
 - ロ. YMCAクリスマス献金未納の会員は、当日受付にお出し頂くこと。
2. 三浦浩君の退会届を受理承認し、在籍会員34名となる。
3. YMCAクリスマスパーティについて
 - イ. 現在奉仕センターで日本語勉強中の留学生のクリスマスパーティが12月10日(土)16時から行われる。
 - ロ. センテナリアルからは、金一封、センテナリアルタオル、石鹸を寄贈し、中村隆幸君および鈴木、田中、山中メネットが「もちつき」の技術指導に奉仕する。

— < 鋭視野・ASIA > —

フィリピンの医療事情と貧困問題 (その1)

— パルド・デ・タベラ博士の講演から —

・ 予防可能な病気で死んでゆく子供たち

1981年8月5日付ブレティン・トゥディ紙によると同年7月に多くの子供たちが胃腸障害と呼吸器障害で死亡している。サン・ラザロ病院の院長は、この二種類の病気は一年のこの時期によく起こる、と述べている。同病院はマニラの貧困層を受け入れる病院であるが、そのことから死亡した子供たちが貧乏な家庭の子供たちであることは一目瞭然である。

フィリピン人はアジア諸国の中で日々の食物摂取が最も少ない。フィリピン人の70パーセントが栄養不良で、5才以下の幼児10人のうち8人が栄養不良状態にある。しかしフィリピンは食物や主要鉱物や森林資源を輸出しており、資源の面からは豊かな国なのである。

貧しい人々は極めて劣悪な環境におかれており、若くして死亡する。成人に達するには程遠い年齢の子供たちのうち50パーセントが、不衛生な水を飲んでいるために、胃腸障害で死亡する。人口の62パーセントが汚染した水を飲料としており、下水設備を設けているのは人口の5パーセントにすぎない。今日でもはしかにかかった子供の多くが死亡しており、生き残った者の多くも視力を失っている。

低収入の家庭では例外なく不衛生で、過密の生活環境のために伝染病が蔓延しやすい。過去30年間、肺炎と結核が死亡原因の第一位と二位を占め続けている。

世界保健機構の統計によると、フィリピンは西太平洋地域で最も高い比率の結核、住血吸虫病、小児麻痺患者を抱えている。また、百日ぜき、ジフテリア、狂犬病の率が世界で一番高く、ハンセン氏病も世界で一、二位を争っている。

結核は社会的病気と言われるように、貧困がその温床になっていることには異論はないだろう。結核を患った人のうち金持は治療を得られるので生き延びられるが、貧乏人は死んでしまう。

なぜ多くの人々が予防可能な病気のために死ななければならないのか。これは魂をえぐるような問題である。(NCC・アジア資料より転載)

メネット コーナー

ワイズメネットの由来について、1977年6月29日に当時日本区名誉理事であった故奈良伝氏が、大阪合同メネット会で講演されました。それを千里クラブ森田好子メネット（森田誠君の母君）が要約し記録した文章の一部をご紹介します。

▽ワイズ・メネットの心

私は今から50年前、アメリカに留学した際、ワイズメンとなる志望を抱きました。帰国後早速大阪の類似クラブを改組して正式に国際協会に加盟し、ワイズ、メンズクラブ第1号が大阪YMCA内で発足しました。次いで神戸、横浜、東京などのYMCA内にも同じクラブが発足した次第です。しかし、その頃はまだ有名なメネットクラブはありませんでした。ところが1931年夏、アメリカのクリーブランドで第10回国際大会があり、東京の殖業、大阪の三井両君と共に私は最初の日本代表として出席いたしました。そこで初めて、ワイズメネッツ(Y's Menettes)なる新英語を聞いた訳であります。国際書記会計ヘンリー・グライムス君のアグネス夫人がワイズメネットクラブについて経過を報告されたからです。それによると、①1923年5月号の米国YMCA同盟機関紙上に、ノースカロライナ州のウィルミントンYMCAから、ワイズウイメンズクラブとよばれる会がないかと問い合わせがあったとのこと。②次いで、翌1924年3月に、カナダのバンクーバーワイズメンズクラブで、ワイズメネットクラブ第1号ができたとのこと。

③28年までにはほかの3個のクラブにもできたとのこと。④以来、国際大会ごとに出席の婦人達のため別個のプログラムを設けて、この課題を討議していることなどでした。そこで1931年大会の国際理事会ではワイズメネット運動を公認し、同クラブの設立を奨励することに決しました。どこにもある「婦人クラブ」の名称を選ぶのにバンクーバー特製の「メネットクラブ」とったこと、そしてメネットとは「少し小さくて可愛い人達」という意味で、Y's Menの後につけたこと、更にワイズメンの夫人は誰でもワイズメネットという称号を受けること……など大変私の共感をよびまして、日本でもぜひ作りたいと思いました。

ところが祖国に帰着してみるとその翌日、日華の戦乱が突如としておこり、以来引続き戦禍と試練の嵐が吹きまくること15年。戦がやっと治まって更に5年を経た1951年の区大会で（金沢の白雲楼に一泊し、家族を同伴した最初の忘れられぬ第6回日本区大会）始めて「ワイズメネット」なる用語が現実の姿をあらわしてきました。その後も日本のメネットクラブは出現せず、やっと神戸にできたので早速富尾久枝会長が61年シカゴ国際大会へ日本メネット代表として夫君と共に出席されました。大阪では1965年4月になりようやく江藤幹枝会長のもとに、大阪5ワイズメネットクラブが発足いたしました。全国の各地でも前後して設立を見たことは皆さんのご承知の通りでありますから省略いたします。

▽メネット会の記録

11月7日(月)鈴木様宅でメネット会を開きましたが、皆様ご都合の折合いがつかなかった様で、参加者は鈴木・田中・谷川・長安・山中・山田メネットの6名にとどまりました。午前中は長安講師による着付け教室を行い、鈴木メネットお心尽しのお手料理をご馳走になりました。午後、鈴木メネットのご指導で毛糸手編みの室内ばきを制作しました。数がまとまれば、クリスマスのプレゼントやチャリティバザーに出品もと考えておりましたが、その目標に達するにはほど遠い結果となりました。どうやら手よりも口の方がよく動いた様でした。次回は22日(火)山中様宅で行うことにしました。

〈 予 告 〉

中西部・新年合同例会・御案内

(ホスト)大阪サウスクラブ

と き 1984年1月7日(土)
15:00~18:00(登録 14:00)

と ころ 建設交流館一大阪市西区立売堀2-1
(地下鉄四ツ橋線本町駅・西南約5分)

プログラム

I部 講 演 堀江 謙一 氏

II部 新年合同パーティ

会 費 12月20日まで
メン・メネット4,000円 コメット2,000円
12月21日以後
メン・メネット5,000円 コメット2,000円

申し込み 12月例会当日、受け付けます。

'83年の新年会に初参加したセンテナルはクラブ対抗の顔見世コンテストで見事優勝しました。来年もまたアイデアとチームワークでハッスルしましょう。

〈 YMCA ニュース 〉

▽クリスマス献金のお願ひ

クリスマス献金をお願いする時期がまいりました。当奉仕センターでは、本年はとくに海外YMCAの指導者の日本での研修と国際協力基金のために皆様のご助力をお願いしております。今年もワイズの皆様のご協力を是非お願いいたします。

▽世界YMCA同盟より宮崎主事来る

かつて大阪Yの主事であり、現在世界YMCA同盟(在ジュネーブ)の難民救済事業の責任者として活躍中の宮崎幸雄主事が一時帰国いたしますので来る12月13日(火)夕刻、当奉仕センターで報告講演会を開きます。どうぞご来場下さい。

▽日本語コース学生のクリスマスにご協力を

現在奉仕センターではいろんな国々から約50名の学生が日本語集中コースで勉強していますが、12月10日に開かれるクリスマスで「もちつき」の希望があります。ワイズやメネットの皆さんご奉仕いたしませんでしょうか！ よろしくお願ひします。

・ THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA - CENTENNIAL ・

NEWS IN BRIEF

●日韓両国YMC Aの指導者による定期協議会が、10月に大阪で開かれました。今回はじめてワイズ日本区代表が正式にこの会合に招待され、センテニアルの谷川寛君がその役を勤めました。多くのことが語られましたが、ワイズ関連では「ワイズメンズクラブ相互の交流が、YMC A間の交流にまで拡大するよう努力する」という日韓ワイズに対する大きな期待が述べられています。この問題は、11月に六甲で開かれる日韓ワイズ指導者セミナーにて討論されます。

●10月10日、豊中のホテル・アイボリーに於て、大阪サウスクラブの主催により、韓国ワイズメン・メネット歓迎の特別例会が開かれ、ゲストとして大邱アルファクラブの宋昌華、李重吉の各ご夫妻ら5名の方々の出席があり、親睦のムードあふれる中で笑顔の会話が交わされました。センテニアルからは鈴木謙介君、森庄司君が出席しました。

●10月には又中西部YMC Aサービス事業委員会が開かれセンテニアルの中村隆幸委員が出席しました。「YMC Aの活動を支援する意味において、YMC Aの協力会員となることの徹底」「ワイズとYMC Aのコミュニケーション促進」「YMC Aリーダーとの交流」「ウェルネス（健康生活の促進）をYMC Aを通して普及させる」などの問題が討議されました。

●11月8日の神戸ワイズの例会に、日本YMC A同盟委員長、佐藤邦明氏（東京むかでワイズ）がスピーチをされました。センテニアルからは、安福副会長、杉本恭之助君、谷川寛君、それに鈴木美藤メネットが出席し、大いにセンテニアルのPRにつとめられました。

●11月12日、奈良クラブの例会に谷川寛君が招かれ、「アメリカとカナダで拾った話」というスピーチをされました。

●来年6月2～3日に仙台で開かれる日本区大会に団体ツアーで経済的に参加しようという計画が、大阪クラブで練られています。センテニアルもこの仲間に入れてもらおうと、先月一応の希望をとりましたが、今からでも間に合うようです。お問い合わせは河野書記まで。

●国際大会は7月25日～28日、米国ミシガン州グランドラピッツで行われます。この旅行プランは日本区で決まりました。A・B・Cの3コースがあり、費用は53万円から、65万5千円まであります。詳細は近々阪急交通社から案内されることになっています。

●さる8月の納涼例会にゲスト参加をされた釜山YMC A総務林信泳氏よりお便りが来ました。「あの時の親切なホスピタリティに感謝しています。メンバーの皆さんにありがとうとお伝え下さい」と書かれてあります。当日の写真とブリテンをお送りしたことへのお礼の手紙でした。

§ 一枚の写真 §

谷川 寛

「英国からのクリスマス便り」

今年も主の降誕を祝う季節となりました。

センテニアルのみなさんのお宅にも、海外からのクリスマス・カードが到着しはじめていることでしょうか。私のところに届いた今年一番乗りは、11月12日に届いた英国ブリストルのノーマン・カリモアからのものでした。

彼とは、昨年10月にスコットランドのワイズを訪問して以来の仲です。写真はその時のものです。



昨年英国出張にあたり、イングランドたゞ一つのワイズを訪問したい、と彼に手紙をしたのがそのきっかけでした。現地で仕事の合間をみて、彼と二人でチャーター間近のスコットランドのペイズリーに飛びました。この辺の経緯は今年1月のブレティンに書きました。その報告では、今年3月頃には英国第3番目のクラブが誕生する予定とお伝えしました。しかし、その後の現地の事情は厳しく、チャーターは遅れております。その理由は、有能なメンバー候補者が思ったほど集まらないのです。彼はその後何回も、スコットランドやワイズの弱い南ヨーロッパに飛び、エクステンションに努めています。

彼のクリスマス・カードには次のようなメッセージがありました。

「クリスマスのお祝いを申し上げます。

私達は、今でもペイズリーでの新しいクラブのチャーターに向い一所懸命努力しています。

決して諦めてはいません。

どうか新しいクラブ誕生のために祈って下さい。

あなたとあなたの家族、あなたのクラブにとって

1984年もよい年でありますように祈っています。

世界のワイズ、そしてYMC Aのことを覚え、

共に祈りましょう。」

計 報

森庄司君のご母堂、栄子様（80歳）はかねて療養中のところ、11月21日ご逝去になりました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。